

# シグマ研究委員会崩壊熱評価W.G. サブグループ会合議事録

日 時：昭和54年2月7日(水) 13:30 - 18:00

8日(木) 9:30 - 17:00

出席者：山本 徹（東北大），松本純一郎（原研）

中嶋 龍三（法政大），村田 徹（NAIG）

議 題：

## 1. 現在までの作業進捗状況

### i) 処理計算関係

村田氏担当の部分を除いて、インプットはほぼ終了した。しかし、後に議論するように、処理計算コード PROF P に若干の修正を加えたので、インプットを少しばかり補正する必要がある。

### ii) 新しいデータの収集

かなりの量を整備してあるが、崩壊モードの図表の改定作業を行っている。約半分ぐらい終わっている。

### iii) 研究会報告書について

田坂氏よりの質問状を検討し、数式の不十分だった点を補うことにする。この件は終了。

## 2. 54年度計画

処理計算を終了した後は、

- i) 系統性の検討と、未知データの推定
- ii) 崩壊データ・ファイル I の作成と公開
- iii) 崩壊熱総和計算
- iv) 処理コードの修正
- v) 崩壊データの継続的収集・評価
- vi) 崩壊熱測定データの系統的収集・検討
- vii) 崩壊データ・ファイル II の作成準備

v), vi), vii) は55年度以降に続ける。

### 3. 処理計算コードPROFPの修正

- i) 収集した崩壊データのすべてが見やすくアウトプットされるようにした。たとえば、崩壊モードの分岐比や、安定核種の情報など、総和計算の際に必要なもの全部を打出すようにした。
- ii) 電子捕獲崩壊 (EC) とベータ・プラスとを計算できるようにした。ECの場合にはX線、ベータ・プラスの場合には消滅ガンマとして、それぞれガンマ線スペクトルの中に顔を出す。
- iii) 内部転換を考慮した。したがって、ガンマ線強度の不足部分は、転換電子としてベータ・スペクトルの中に (線スペクトルとして) 顔を出す。
- iv) 規格化係数の誤差について

規格化係数 (相対強度から絶対強度に変換する係数) の誤差が、最終的誤差をほとんど決定する係数) の誤差が、最終的誤差をほとんど決定することになる。これをどう取扱うか。

今回は、規格化係数の誤差を入れたものと、入れないものとの両方を打出すことにする。

以上の議論にもとづいて、プログラム修正、インプット・カードの改正、および村田氏担当の A = 93-99 のインプット・データの記入の作業を行った。次回は3月上旬、NAIGの吉田氏にも協力をお願いすることにする。